

はじめに

イソップ物語が原型になっているお話です。三、四歳の幼児向けで反復が多く、幼児の、反復を好む傾向にふさわしいお話といえます。大人が聞いたらくどいと思えるような繰返し、子どもの心には快さを与えます。話をする時は、身がまえずにサラッと始めてください。漢字はカードを出しながら、その字の話の出た時に、なにげなく見せるのがコツです。話を中断して「これが“森”という字ですよ」などと強調するのは物語の流れをストップさせ、せっきく興味が湧いてきて、「次は何かな」と思う期待感をそこねてしまうからです。

ここでは「森、池、鳩、蟻、風、木の枝、獵師、鉄砲」などが提出可能ですが、最初からこれら全部を示す必要はありません。二回、三回と話を繰返すうちに、漢字の数を増やせばいいのです。初めは鳩と蟻の二字でも一向にかまいません。

今日はこれから皆さんに、おもしろいお話をしてあげます。これはね、何が出てくるお話でしょう。

「モリ！」

そう、森、よく知っているんだね。

あるところに、大きな大きな森がありました。その大きな大きな森の中に、小さなかわいらしい池がありました。この池の中にはね、あまり小さいのでお魚が一匹も住んでいませんでした。池というとたいてい、いろんなお魚が住んでいるでしょう、金魚がいたり、それから、そうお

魚が……。それから、ことによるとおたまじゃくしや、カエルなんかもいるかしれません。

ところがこの池の中にはね、なんにも住んでいませんでした。そのかわり、そのかわりというおかしいけれどもね、この池のそばに蟻が住んでいました。蟻って知ってるかな？

「ハーイ！」

見たことあるね。

「ハーイ！」

こんなにちいぢな黒い色をした虫、で、甘い物が好きだね。皆さんと同じで、甘いケーキなんか大好きです。それでね、体が、蟻さんは小さいけれど、実は大へんな力持ち。自分の体の何倍もあるような大きな物を平気で運びます。

それからね、かしこいことはね、おいしい食べ物を見つけてもすぐに食べてしまわない。どうするかというと、それをね、お家へ持って行って、ちゃあんとしまっておくのね。そう、そして、冬になると食べ物がなくな、て、たいていの虫はみんな死んでしまいます。食べものがないと死んでしまう。おなかがすいて、みなさんだって食べものをちっとも食べないと死んでしまいますね。それでね、蟻さんは食べ物をちゃあんと家にたくさんしまっておいて、冬になっても食べ物に困らないようにするんです。

だから、他の虫は死んでしまうけれども、蟻さんは冬になっても死なない。そして、暖かい夏がくると、また穴の中から出てきて、せっせと働いて食べ物をお家にしまっておくんです。

ある、暑い夏の日のことでした、蟻さんが、何かおいしい食べ物はなかなと、探していますと、あったあった、体よりもずっと大きなケーキのかけら。このくらいの、皆さんから見るとね、口にも入れたくないようなちっぽけなかけら。でも蟻さんから見ると、大きな大きなケーキです。

「ああ、これはいいものを見つけた。これだけあったら何日も食べられるよ、ようしお家へ持って行こう」

よいこらしよ、よいこらしよ、よいこらしよ、よいこらしよ、よいこらしよと、いっしょうけんめいに蟻さんは、このケーキをお家へ引っぱって行きました。たいへん疲れました。そしてとってもものどがかわきました。

「ああ、お水飲みたい、お池に行ってお水でも飲みましょう」 蟻さんは、池に行ってお水を飲みました。口をつっこんで「シュー、ああおいしい、シュー、もう一杯のもうかな、シュー、ああおいしい、いっしょうけんめいに働くと、お水っておいしいんだな、シュー、もう一杯、ああおいしい」。

蟻さんが、おいしいおいしいってお水を飲んでいる時です。大へんな事が起こりました。それは、風が起こった。強い風がピューッと吹いてきて、お水を飲んでた蟻さんを吹き飛ばしました。そして吹き飛ばされた蟻さんは、池の中へポチャーン。蟻さんは泳げないの。それでね「たすけてくれえ！ たすけてくれえ！」と大きな声を上げて泣きました。

それを聞きつけたのが、森の中に住んでいた鳩さんです。鳩が、それを聞きつけてねえ、飛んできました。鳩さん、見ると蟻さんは苦し

そうに「たすけてくれ！ たすけてくれ！」とさわいでいる。

「あっ蟻さんが大変！ たすけてあげなくちゃ」 鳩さんはあたりをきょろきょろ見まわしますと、そこにちょうどいい木の枝が見つかりました。このくらいの木の枝が落ちています。「そうだ、これがいい」木の枝を口にくわえると、飛んで行って池の蟻さんがばちゃばちゃしているすぐそばに落してやりました。

「蟻さーん、その木の枝につかまるのよ！」と教えてやります。蟻さんは、木の枝にしっかりつかまりました。するとまたまた風がピューッと吹いてきました。でも、蟻さんは、この木の枝にしっかりつかまっています。風に吹かれた木の枝は、シュー……、ボートのようにいきおいよく走って向こう岸にぴたっと着いたから、蟻さんは無事にお家へ帰ることができました。

蟻さんは鳩さんに助けられたでしょう、それでね蟻さんは「鳩さん、助けてくれてどうもありがとう」ってねお礼を言ったんです。さあ皆さん、この「ありがとう」という言葉が大事なのよ。みなさんね、物をもらった時、人から親切をしてもらった時、そういう時にね「ありがとう」って言える子はいい子だけれど、だまっている子はおばかさんよ。「ありがとう」って言えるかな？

「ハーイ！」

よろしい、じゃみんないい子だね。みんな蟻さんもいい子でしたね、ちゃんと鳩さんに「助けてくれてどうもありがとう」と言ったんです。

その次の日です。森の中に怖い顔をした人がやってきて、あっち

をぎょろり、こちらをぎょろりみまわしています。さあ、なんだか大変なことになってきました。それはね、猟師でした。猟師というのは鉄砲を持って、けだものや鳥を見つけると、ストーン、と撃つのが仕事ですね。すごい鉄砲を持っていますよ。さあ、その猟師がこの森へやってきたのです。

そして鳩を見つけると、後の方からじっと鉄砲でねらいをつけました。「あぶない！」 - 猟師が引き金を引くと、鳩さん死んでしまいます。それを見ていたのが蟻さんですね。蟻さんはそれを見ると、「あっ猟師が鉄砲で鳩さんをねらっている、たいへんだ、助けてあげなくちゃ！」といっしきつけんめいになってかけて行きました。

そうしてかけていくと、猟師の足にガブツとかみついたのね。そうしたら猟師が「痛あい」と言って飛び上がって、それで鉄砲が鳩さんに当たらなかった。鳩さんは逃げることができました。それで今度は、鳩さんが蟻さんに「蟻さん、助けてくれてどうもありがとう」とお礼を言いました。

前は鳩さんが蟻さんを助けて、今度は蟻さんが鳩さんを助けたんです。鳩さんと蟻さんと仲がいいね。みんなもこの鳩さんと蟻さんのように、お友達同士困った時には助けてやるのがいい子なんです。みんなできるかな。

「ハーイ！」

ああ、できる。いっしょうけんめいがんばってください。それじゃね、鳩と蟻の話はこれでおしまい。

それでは、いろいろな字が出てきました。読めるかな、

「モリ！」

森という字でしたね。森というのはどういうところかな。木がたくさんあるところね、ハイこれはなんという字？

「イケ！」

はい池でしたね、お水がたまっているところ。はいこの字、

「ハト！」

鳩ですね、この字、

「アリ！」

蟻、これは？

「カゼ！」

これは風ですね、風が吹いてきてどうなったっけ、飛ばされた、何が飛ばされた？

「ア리가！」

蟻が飛ばされたね、はいこれはなんでしょう、木の枝ですよ。これは？

「リョーシ！」

はいこれは猟師ですね、はいこれは？

「テッポー！」

鉄砲。じゃあもう一回はじめから読んでみましょう。

森、池、鳩、蟻、風、木の枝、猟師、鉄砲。ハイよろしい、はいよくできました。これでおしまい。(拍手)